

ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウ形成に関する特性調査

利用対象：生薬生産希望者、植木生産者

ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウ（塊根部）は、消炎、滋養強壮、鎮咳等の効果を有する生薬としての需要が高いにもかかわらず、国内需要全量を輸入に頼っているのが現状です。本県では、タマリユを中心としたジャノヒゲ類は出荷額全国 1 位（シェア 40%）の産地を形成しています。

そこで、国内での生薬生産を行うため、ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウの時期や栽培条件の違いによる塊根の肥大について明らかにするとともに、国内の系統と中国産のジャノヒゲについて比較しました。

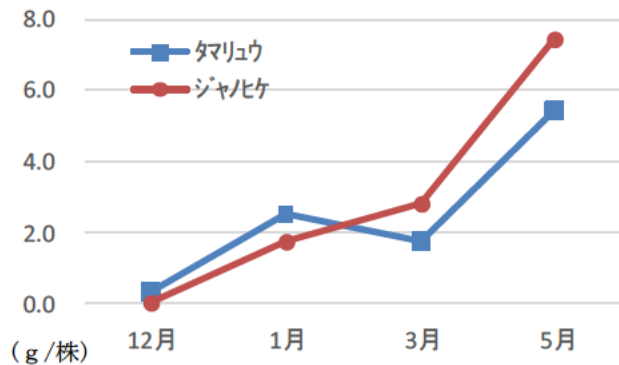


図1 品種別株あたり根塊重の推移(H28.5)



ジャノヒゲのバクモンドウ
(中国産) (国産)

表2 ジャノヒゲ類の品種別生育と塊根の生長量(H29.6)

系統	草丈 (cm)	芽数 (cm)	塊根数	塊根長 (mm)	塊根幅 (mm)	1個あたりの重さ (g)	塊根重 (g)
タマリユ	11.4	10.3	36.2	20.3	5.7	0.22	8.0
ジャノヒゲ	18.7	9.9	75.5	22.6	5.4	0.19	14.3
ジャノヒゲ自生(短葉)	27.7	10.0	12.6	17.1	7.1	0.32	4.0
ジャノヒゲ自生(長葉)	31.5	10.0	36.6	20.9	9.0	0.32	11.8
中国産ジャノヒゲ	35.0	21.7	78.0	40.6	8.0	0.76	59.0

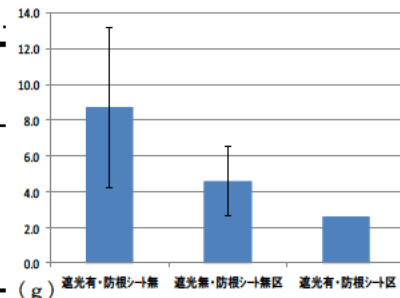


図2 試験区別株あたり塊根重(H28.5)

- ・ ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウ（塊根部）は、12月ごろから塊根の肥大が始まり、その後緩やかに増大し、3月から収穫時期の5月に急激に増加します。
- ・ 株あたりのバクモンドウ（塊根部）の重さは、中国産ジャノヒゲが最も重くなり、国内のジャノヒゲ類の中では栽培種のジャノヒゲが一番重くなりましたが、中国産の約1/4となりました。
- ・ 栽培方法については、根域制限しないこと、夏場に遮光処理を行うことにより株あたりの塊根重は大きくなりました。

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 花植木研究課 小林泰子 電話 059-370-4977
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm